

睦眉会会報

発行者 徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509

徳島大学医学部保健学科内

TEL 088-633-9069 FAX 088-633-9070

発行責任者 河田明男



格差社会と医療

徳島大学睦眉会 会長

河田明男

(診療放射線技師学校 第3期生)

小泉内閣の時代に顕著に表れた「痛みをともなう構造改革」は、ここにきて格差の顕在化をもって国民にその姿を現したと言えます。医療は社会の縮図であると言われます。人が人らしく、健やかなとき、病めるときに治療と癒しを求めてやまないのは当然で、その担保を税に求め国家プロジェクトとして、過不足無くセーフティネットを構築し恩恵を国民全てに付与する。これが医療先進国・日本の医療のトータルデザインであった筈です。

しかし今日の日本医療の有り様を、誰が想像できたでしょうか？国家予算に占める医療費の割合を圧縮しリタイアした年金生活者からも一定額の治療費を徴収する。若年者に至ってはワーキングプアの増加による年金制度、健康保険制度の矛盾が、また制度の崩壊が懸念されています。建前としては「日本国中どこに居住していても最低限の医療提供を受けられる」ことになっておりますが、人口の過密・過疎と同様に医療資源の過密・偏在が顕著に現れてまいりました。戦後60余年の社会のありようとして、また国民の希求する形とは、ほど遠い物が出来上がってまいりました。

私も放射線技師になり35年を迎え、退職という現実がすぐそこに迫ってきました。医療現場に在籍すると、この医療制度が持つ矛盾を現実のものとして感じる事が、多々あります。永きにわたり「出来高」制度であった医療費が「DPC・包括」制度に変更され、地域完結の名目で連携医療制度が強化され、量的判断のみで「7：1看護」制度が始まりました。7：1看護実現の方策として病床削減を実施し、結果として二次医療圏における総病床数の減少、さらには救急医療・緊急医療に供する病床数の減少という現実がここにあります。マクロ的に総量を想定し実施し足並みが揃ったところで質の規制に

入っていく。質的規制は第三者機関による評価制度、専門医師、認定看護師、認定技師、等の輩出によりレベルの底上げを図る。また一定数の認定者が在籍しない施設には診療報酬制度上で他と差をつけて差別化を図る。厚生労働行政の常套手段ではありますが、第一線で地域医療を担う現場は、その時々に対応に振り回されているのが現実の姿であります。

本来厚生行政は国勢調査をはじめとする、全国規模の現状調査結果から国家医療体制の将来像をデザインし、現下の医療従事者の充足度、新陳代謝を考慮して過不足無く医療を供給する務めを担うものです。責任官庁の存在価値はその一点にあります。しかるに記憶に新しいところですが、「医師過剰」をキャッチフレーズに全国の大学医学部医師養成課程で、定員を削減したのはついこの前です。その結果臨床研修制度の発足とともに総体として医師不足の様を呈しております。いま定員増の施策が講じられようとしておりますが、医師養成には最低10年という期間が必要です。ちぐはぐ、つぎはぎのその場しのぎ政策のツケは、総じて善良な国民になお一層の負担増となって現れてまいります。

しかし政治の矛盾は等しく国民が感じ、判断するところでもあります。われわれ医療の現場に従事する者として一緒に考え、与えられた状況のなかで最善のチーム医療を実現し推進することが専門職の務めであると考えます。まさに医療を含め社会生活全般に格差が生じその改善と、より安心な社会生活実現に英知を結集することこそ最善の策であると考えております。



同窓生通信



「がん性疼痛看護認定看護師としての活動」

徳島大学病院
がん診療連携センター がん緩和ケア部門

蔭山 恵美

(医療短大 看護学科 第6期生)

平成8年3月に徳島大学医療技術短期大学部看護学科を卒業し、徳島大学病院に就職しました。徳島大学病院では、整形外科病棟や消化器・循環器内科・心臓血管外科の混合病棟、NICUや消化器外科・移植外科で勤務しました。

がん性疼痛看護認定看護師を目指したきっかけは、整形外科病棟勤務の際に、がん患者さんの担当をさせていただいた時に、がんの痛みは、なんて強いもので、こんなに苦しмаなくてはいけないのだろうか、もっと患者さんが楽になる方法はないだろうかと疑問を持つようになったことです。次の消化器・循環器内科・心臓血管外科病棟で勤務している時に、がんの患者さんと接する機会が増えたこともあり、自分の知識や技術を増やして、痛みなどで困っている患者さんの力になりたい！と思い、神奈川県立保健福祉大学実践教育センターのがん患者支援課程を受験しました。がん性疼痛看護認定看護師を目指しての半年間は、課題や試験、グループワーク等に追われることが多く、また時には自分自身について振り返りを行うなど、とても充実した毎日となりました。

平成17年8月にがん性疼痛看護認定看護師の資格取得後は、病棟にて通常業務と平行して疼痛緩和などを行うため、思うような活動が出来ないこともありましたが、平成19年5月から徳島大学病院緩和ケアセンターにて、緩和ケアチームの一員として活動を開始しております。大学病院内の各部署を活動の場として、がんによる痛みや不安、倦怠感、病気の受容や在宅支援など、身体的な苦痛のみならず、心理・社会・スピリチュアルな側面へのケアを提供し、業務に励んでおります。

疼痛のコントロールに難渋し、自信を喪失することもあります。関わっている患者さんからの「待ってたよ」「いつも来てくれてありがとう」「笑顔で出迎えてくれる様子」などに励まされることもあります。また病棟のスタッフからこの薬どうですか？○○さんの痛みのことですが…などコンサルテーションを受けることもあり、自分を必要としてくれている人がいることを励みに、また活動により患者さんのQOLが向上するように、今後も努力していきたいと思ひます。

「えっ、そんなに！」

藍眉会(近畿地区放射線OB会)会長
大阪大学医学部附属病院

中村 幸夫

(診療放射線技師学校 第2期生)

近畿地区放射線OB会「藍眉会」ご紹介

今から8年前となりますが、私のもとに徳島大学出身の後輩から「近畿地区で働くOBの有志が集まって食事会をするので来ませんか」との連絡が入りました。それまで、近畿地区には3~4人の先輩と3人の後輩がいることは承知しておりましたが正直連絡を取り合うまでではありませんでした。

会合当日、十数人が参加されていて2~3人は顔見知りでもありましたが他の方とは初対面でありました。その席で100人を超える方が近畿地区に就職されていると聞き驚いたものです。それぞれの学年毎に連絡を取り合っているグループもあるようですが縦の繋がりがなく学会で知り合っても同窓生とは思っていませんでした。

初会合の席で近畿地区に就職している卒業生を対象に同窓会を立ち上げることに、会長に中村幸夫(昭和47年 技師学校卒)、副会長に宇都辰郎氏(昭和50年 技師学校卒)、事務局を北野病院に置くこと、事務局長に小阪清志氏(昭和56年 技師学校卒)が決定しました。

開催内容について「親睦を暖めること」を第一目的とするならば酒席の設定でいいのですが「情報交換」「個人のスキルアップ」も必要ですので講演、研究発表の場にもすることを決定しました。また、近畿地区放射線OB会ではありますが、近畿以外の方にも門戸を広げる意味で「藍眉会」としました。文字を見るだけでこのOB会かも解ると自負しております。

我々、世代は異なりますが共通の話題と言うか接点は徳島

時代の教官の方々となります。と言う訳で平成11年11月、第1回藍眉会を「藤田一彦先生を囲む会」として大阪で開催することにしました。昨年、第5回を母校である保健学科の講義室を拝借し講演会ならびに病院見学をいたしました。最近では近畿地区のみならず四国、東京、中国、九州地区からの入会者があり年に一度の会合ですが時空を超えて和気藹々とした雰囲気の中で時間を過ごしています。また、現役の学生さんの参加も認めています。我々も病院見学の受け入れ、就職情報の提供など可能な限り力添えをしたいと考えています。

最後になりましたが藍眉会会報に掲載許可を頂きました関係各位にお礼を申し上げます。



第5回 藍眉会 in 徳島



青年海外協力隊に参加して

徳島県総合検診センター

蟹谷和見

(医療短大 衛生技術学科 第5期生)

1999年から2001年にかけての2年間、私は青年海外協力隊員としてアフリカのマラウイ共和国で過ごしました。あまり馴染みのないマラウイとい

う国は東アフリカに位置する、世界でも最も貧しいとされる国のひとつであり、私はその国のキリスト教会系病院で、検査技師としては5人目の日本人ボランティアでした。

そもそも協力隊に参加した動機は役に立ちたい気持ちより、外国での生活を経験したいという気持ちが強かったので、一次・二次と試験を受け、最終的に派遣国マラウイという合格通知を受け取った時はそれがどこなのかわかりませんでした。マラリアやHIVの流行地であることを知り思わずひるみましたが、「アフリカなんていかに協力隊やな」と励まされ(？)、それから3ヶ月間の派遣前訓練を経て、アフリカの赤い土を踏みました。

配属先であった検査室には2人の検査技師と検査助手が1人、あと雑用をしてくれる女の子が1人いました。穏やかでとてもいい人ばかりでしたが、ルーズなところもあり、私は小言ばかり言っていました。また病院はルクセンブルグの支援で運営されており、日本人ボランティアの派遣も20年近く続いていたので、彼らにはあまり自立心が感じられませんでした。

派遣期間中には生化学検査を始めたいので、検査設備のドネーションを要請されましたが、安定的に試薬を手に入れるのが難しい状況で、しかも代々の隊員達がドネーションしていった顕微鏡やら恒温槽が壊れてしまっている状況を見ると、彼らの意見を聞き入れることができませんでした。それよりも列をつくて待っている多くの患者さんに少しでも早く対応するこ

との方が重要に思えてならなかったのですが、今思えば意欲のあった彼らの要請を否定してしまったことには申し訳なく思う気持ちがあります。

帰国する4ヶ月前に病院内で賃金値上げを求めて、スタッフ達はストライキに入りました。しかし、要求は認められず、逆に彼らは解雇されることになりました。一緒に働いていた医療スタッフの大部分は首都に出稼ぎにでたりして別の就職先を見つけましたが、英語の話せない専門職でなかったスタッフに仕事はありませんでした。新しいスタッフは数週間後にやってきましたが、大勢の患者さんに対応できず、病院の経営陣は診療代金の前払い制を決めると、患者の数は一気に減りました。ストライキをおこした労働者側の彼らの意見や立場は理解できましたが、結果的にお金がないために多くの患者が検査や治療を受ける事ができず、また煽られた形でストライキに参加したようなおじさんは30年働いた職を失いました。話し合いの場もたず、一方的に解雇を言い渡した上層部の横暴さには納得いきませんでした。私は何もできずにその状況を見ていることしかできぬまま、任期を終えました。在住のイギリス人にこの話をしたところ、「マラウイにデモクラシーは早すぎる」と言いました。なにか釈然ともしませんでした。

マラウイでの2年間は常に自問する日々だったように思います。彼らとうまくやっていくことを考え、ただ毎日のルーチン業務をこなすだけで、何をやってきたんだろうと思うことばかりですが、同じ医療現場でありながら、状況も立場も命の重みも違いすぎた環境で働いたことには少なからず影響を受けたように思います。母親に抱かれ採血にきた子供の腕を触った時、すでに冷たくなりはじめていた感触は忘れられません。



時間・時・TIME

橋本公子

(助産婦学校 第10期生)

卒業生の皆様お元気ですか。現役でバリバリご活躍の皆様、退職された後ご自分の為に時間をお過ごしの皆様、次の新しい時間が始まった皆様、時間の過ごし方は様々だと存じます。私の退職後は、趣味の時間も増えましたが、助産師としての時間に多く使われるようになっていきます。ひよんなきっかけて助産所を開設することになり、地域での活動が始まりました。今、社会では女性のライフサイクルの出産育児年齢にスポットが当てられています。しかし、その渦中にある女性の環境はといえば、快適とはほど遠く、うーんとうなりをあげ、どうしたらいいのだろうかと考え込んでしまう程良くない状況にあります。ただ言えることは、その時代の女性を支える職業である助産師を、今、地域・家族・女性が必要としていることです。

私は保健センターから依頼を受けて出産後の母子訪問に出掛けていますが、その依頼者である母親は、多くの不安を抱えています。これでは放って帰れないと思うことも度々で、その対応には多くの時間が必要とされます。それは私にとってほとんどお金にならない時間ですが、その母親にとって

はこれからの育児に注ぐ為の大切な時間であるように思われます。

各市町村では、平成19年度より国の委託事業として、出産後の母親の育児不安や子どもの成長の阻害因子を早期に発見するための全戸訪問「こんにちはあかちゃん事業」が始まっていますが、徳島県でも平成20年度からこの事業が開始されます。その事業を、ぜひ助産師に担って欲しいと保健センターの所長から徳島県助産師会に依頼がありました。助産師でなければと依頼されたことではありますが、本来助産師が担う分野であろうと考えている8名の助産師は、事業参加を快く引き受けました。ただ、年間2,000件の全戸訪問となるとマンパワーが必要です。もっと多くの助産師の参加があれば、よりスムーズな連携をもって母親と子どもに手を差し伸べられるのにと切実に感じています。助産師の皆様、ご一緒に始めませんか。そして助産師免許を持つ限り生涯現役として地域社会の中で時間を過ごすのもひとつの選択だと思います。私はいつの間にか助産師としての時間が増えてしまいましたが、助産師であることに誇りある時間を持ちたいと思っています。

徳島大学名誉教授
元徳島大学医学部保健学科教授

森本 忠興



大学卒業後医師となり40年間、うち徳島大学在職30年間には、公私にわたり大変お世話になりました。短大・保健学科では、管理・運営者としての在り方等、私にとっては大変よい経験を致しました。平成19年3月末の退職から6ヶ月が経過致しました。4月いっぱい完全休養を取り、5月連休明けから、本格的に仕事を始めております。定職に就くことなく、2つのNPO法人理事長（NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会、NPO法人徳島マンモグラフィ読影委員会）を兼務し、非常勤医師として、大学を中心に数カ所の病院、健診機関で臨床を行いながら、ライフワークである本邦の乳癌死亡率減少を実現するための努力を続けております。現役時代より、月曜から金曜日まで多忙な日々を送っております。

私が理事長を務めるNPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会（精中委）についてご紹介致します。精中委は、1997年、厚生労働省研究班において検討されたマンモグラフィ検診精度管理システムを実践する機関として設置されたものです。現在まで検診関連6学会の協力のもとに

その精度管理システム作りを行ってきました。精中委には、教育研修委員会と施設画像評価委員会が設置されています。1999年3月から、医師・技師に対して教育と研修を目的としたマンモグラフィ講習会を実施し、講習会後の試験結果から、一定の基準に従い医師・技師に認定証を発行しています。2007年3月31日現在、マンモグラム読影医師10,758名、マンモグラフィ撮影放射線技師11,270名が講習会を受講し、乳房撮影装置843台が施設画像評価を受けています。さらに、2004年、精中委は内閣府からNPO法人認証を受けました。精中委設立当初から委員長を務めておりますが、現在、理事長を務めているため、事務局のある名古屋には、講習会や役員会等のために月3～4回は出向しています。この4月より認定更新制を導入したために、しばらくは多忙な日々が続くそうです。

さて、山野修司先生の学科長就任、来年から保健学科大学院博士設置が決定したこと、また、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プログラム」に採択され、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の一員として、この中に入り、がん治療専門職養成を目指すとのことが決まったとのことです。保健学科は、がん看護等の専門看護師 CNS取得コース等も考慮した編成にすべきであること、蔵本キャンパス内の他の部局とのネットワークをさらに広げ、連携する必要があること等、3月の退職時の講演でも主張してまいりました。この度、この報に接して、大変喜んでおります。今度、徳島大学保健学科の益々の発展を心からお祈り致します。末筆ながら、関係各位のご健勝とご多幸を祈念致します。

元徳島大学医学部保健学科教授

藤井 正信



今年の夏は酷暑続きで、全国で多数の熱中症患者が相次ぎました。地球温暖化はすでに現実のものになりました。睦眉会会員の皆様お元気ですか。

退職してはや6ヶ月が過ぎましたが、おかげでこの夏の暑さを乗り切り元気に暮らしています。時間に追われることもなく、今はゆったりとマイペースで時を過ごすことが出来る幸福感があります。

私の住んでいる所は昔からほとんど変わりのない田舎で、前方に畑が開け、数百メートル先には緑豊かな山が見渡せる静かな環境にあります。人は仕事を離れると自然に帰化するようで、私も少しは稲作をしたり、庭木の手入れや剪定、野菜作りの挑戦と、季節を通して結構やるのが沢山あり、退屈することがありません。

私は、在職40年を振り返りよき師、よき先輩に恵まれ、衛生・公衆衛生学分野に身を置くことが出来たこと

はこの上もなく幸運であったと思っています。疾病予防、健康増進の社会医学として、また、実学として生活に密着した学問です。例えば、Breslowの7つの健康習慣は退職後の規則正しい生活習慣を守る上で役立っています。体力の衰えをカバーするために毎日適度な運動をすること、特にレジスタンス運動と有酸素運動を並行して行うことも重要です。公衆衛生学の中で、運動が健康面にどのように影響するか、まだ体系づけて証明されていない現状ですが、あらためて運動の効果を実感しています。

退職して待ちかまえていたのは、地元の自治会長として地域デビューをしたことです。在職中は地域のボランティア活動にほとんど参加出来ませんでした。会長として地域の行事、親睦会、村づくりなどいろいろな活動に参加しています。違った人との触れ合いがあり、在職中とは異なった新しい発見があります。

もともと趣味の少ない人間ですが、これからはストレスにならない程度の趣味を見つけて残りの人生を細く長く生きていこうと思っています。

終わりに、睦眉会会員皆様の益々のご活躍と、ご健康、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

元徳島大学医学部保健学科教授

近藤 裕子

(看護学校 第15期生)



平成19年3月、まだ定年には数年ありましたが、40余年の公務員生活に別れをつけました。4月からは、仕事や時間からも束縛されない自由な生活を満喫しています。さて、40余年の仕事を振り返りますと、何度か職場を変わり、その都度組織や考え方の違いに戸惑いながら勤めてきました。今になっては、いろいろなこと、特にやりがいのあったことや、楽しかったことが思い出されます。それぞれの職場での学びが今の私を育て、さらにこれからの私の人生を豊かなものにして行くことと、感謝の気持ちを強くしています。

4月は引っ越し、5月は国際学会でカナダのバンクーバーへ出かけました。帰国直後には、徳島県看護協会の行事として、ICN横浜大会に参加し、荷物を整理する暇もない忙しい日々でした。ICN大会では、世界中からやって来た看護師の前で、阿波踊りや阿波踊り体操を披露し、下手で恥ずかしい限りですが、自分では満足感・充実感を味わうことができました。このような生活を送っている間に、6ヶ月があっという間に過ぎたように感じています。仕事をしている時よりもより忙しくなりましたが、毎日充実した一日一日を送られることに感謝しています。

仕事を離れてからは散歩が多くなりました。時間や日にちを気にする必要もなく、バス旅行や国内旅行を楽しんでいます。春は新緑の渓谷へ、夏は涼しさを求めて山へ、そして紅葉と食欲の秋を求めて里山、冬は温泉にと、旅行案内書をみながら計画を立てています。仲間からも日にちを気にせず計画できると喜ばれていますので、当分趣味の旅行で忙しい日々が続くそうです。

平成19年度徳島大学 同窓会連合会交流会(びざん会)に参加して

睦眉会副会長
徳島市民病院 中央検査科
江原 隆
(臨床検査技師学校 第5期生)

びざん会は渭水会(総合科学部同窓会)、青藍会(医学部医学科同窓会)、栄友会(医学部栄養学科同窓会)、葦歯会(歯学部同窓会)、葉友会(薬学部同窓会)、工業会(工学部同窓会)、睦眉会(医学部保健学科同窓会)、六一会(大学開放実践センター同窓会) 会員数63,000人余りの連合会で平成18年1月に創設されました。同年に徳島プリンスホテルにて第1回連合会交流会が実施され、今年、5月27日(日)12:00より阿波観光ホテル「クリスタルパレス」5階において出席者136名で、第2回徳島大学同窓会連合会(びざん会)交流会が盛大に開催されました。

青野学長の挨拶から始まり各同窓会代表者の挨拶、懇親会、創設20周年を迎えた総合科学部の過去・現在・未来、大学開放実践センターと六一会及び創設30



周年を迎えた歯学部の歩みのスライドショーが行われました。わが睦眉会からは私と河田明男会長、杉原治美副会長、梅野真由美理事の4名で参加しました。初めて参加した私にとって知る人も少なく緊張した会になったのですが、各同窓会の会長からの報告より各分野でどれだけ活動がなされているかの報告があり、有意義な時間でした。これから毎年1回交流会を開催する予定であり、できるだけ参加していきたいと思っています。交流会で得られた情報を、なんらかの形で睦眉会の発展に反映させたいと思います。



今後自分なりに協力できる事があれば頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

平成20年度徳島大学 同窓会連合会交流会 「びざん会」のご案内

平成20年度の、徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」が、下記のとおり開催されることになりました。

睦眉会会員の皆様も、徳島大学の卒業生としてぜひご参加下さい。他の学部の卒業生や教職員との交流をはかり、親睦を深めましょう。

参加希望者は、睦眉会事務局までご連絡くださいますようお願い致します。

記

日時
平成20年6月1日(日)正午から

場所
阿波観光ホテルクリスタルパレス
(5階)

(徳島市一番町3-16-3 tel 088-622-5161)

睦眉会HP(ホームページ)を作成して

睦眉会理事(HP委員)
徳島大学医学部保健学科

富永正英
(医療短大 診療放射線技術学科 第3期生)

世の中はめまぐるしく変化をとげ、ここ10年でどの分野においても電子化が進められてきた。一番わかりやすい例を挙げると銀塩カメラからデジタルカメラへと移り変わってきた。通信網においてはインターネットが普及し、情報はすべて検索サイト等で調べることができる。また、FAXは影をひそめメールという手段に取って代わってきている。

そのような時代背景の中で徳島大学医学部保健学科同窓会の睦眉会でもHP(ホームページ)の作成が望まれるのは当然のことではあるが、管理等の様々な問題があり制作は難航していた。今回HP委員会が立ち上がり、ブログ形式のHPが作成された。出来上がったばかりのHPではあるが、冒頭でも述べたように時代は絶えず移り変わっている。決してブログ形式のHPが最良であるとは限らないが、この形式のHPにしたのは管理者が変わったとしても柔軟に対応できること、徳島県がメインとしてのサイトを無料で借りているという点である。このようなブログ形式のHPより格調高いものが制作不可能なわけではないが、現状を把握すると最も効率のよいHPであると思われる。まだ不備な点も多いが、充実したHPを作成するという点においての通過点であると考えている。HPに関する決め事等においての問題は多々残されているが、それらについては役員会、HP委員会等で検討を重ね充実した内容のものにして行く予定である。最後にHP作成に協力していただいたHP委員の皆様ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



睦眉会(徳島大学医学部保健学科同窓会)
URL: <http://mutsumi.betoku.jp/>

平成19年度 徳島大学睦眉会総会報告

日時 平成19年7月4日(水) 18:00～
場所 徳島大学医学部保健学科 大会議室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1) 平成18年度事業報告
 - (2) 役員会報告
 - (3) 平成18年度会計報告
 - (4) 会計監査報告
4. 議案審議
 - (1) 平成19年度予算案、事業計画案について
5. その他
6. 閉会

平成18年度 事業報告

1. 総会・睦眉会主催講演会の開催 …… 平成18年6月3日
徳島ワシントンホテル (参加者 29名)
第6回講演会 「タカの渡り」 三宅 武 先生
2. 徳島大学同窓会連合会交流会への出席 (会長 他) …… 平成18年6月18日
3. 徳島大学大学院保健科学教育部および徳島大学助産学専攻科
設置記念祝賀会出席 (会長 他) …… 平成18年6月28日
4. 睦眉会会報 (第6号) の発行 …… 平成18年11月2日発行
5. 卒業式・医学部各賞授与式出席 (会長 他) …… 平成19年3月23日

役員会報告

1. 役員会開催状況 (平成18年4月～19年7月)

回数	開催日	場所	参加人数
1回	平成18年4月6日(木)	保健学科会議室	12名
2回	平成18年5月22日(月)	保健学科会議室	16名
3回	総会開催 平成18年6月3日(土)	徳島ワシントンホテル	29名
4回	平成18年7月24日(月)	保健学科会議室	17名
5回	平成18年9月13日(水)	保健学科会議室	11名
6回	平成19年3月7日(水)	保健学科会議室	10名
7回	平成19年4月25日(水)	保健学科会議室	12名
8回	総会開催(役員会) 平成19年7月4日(水)	保健学科会議室	14名

2. 役員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会開催について
- 2) 睦眉会会則の改正について
- 3) 役員改選について
- 4) 睦眉会会報の発行について
- 5) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 6) 徳島大学大学院保健科学教育部および徳島大学助産学専攻科設置記念事業への寄付等協力について
- 7) ホームページ開設について

徳大ニュース



徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。また、会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部秘書課 (Tel : 088-656-7021 Fax : 088-656-7012)

E-mail : hibunsyok@jim.tokushima-u.ac.jp URL : http://www.tokushima-u.ac.jp

I 学内の状況

■第7回インターネット活用教育実践コンクールで

文部科学大臣賞

徳島大学開放実践センターの吉田敦也教授が開発したシステム「ユビキタス双六遍路」が、優れたインターネット教育活用事例を紹介する「第7回インターネット活用教育実践コンクール」の社会教育部門で文部科学大臣賞を受賞しました。

システムでは、ウォーキングした歩数をパソコンか携帯電話からブログに記録すると、それを自動集計し、距離換算した後、どれだけ歩いたかを四国八十八カ所のお遍路地図に表示します。若い世代より普及が遅れているITを中高年に浸透させる一方、県民の糖尿病死亡率が全国ワースト1になっていることから、運動不足解消につなげようと考案されました。

■地域創生センター設置

4月1日、徳島大学・地域創生センターは、特色ある徳島づくりの実践に徳島大学の力を結集し、目に見えた変化を徳島に起こすことをめざして開設されました。

地域ICT化推進部門、地域資源活用部門、地域マネジ

メント部門、地域連携教育開発部門の4部門で構成されています。

学内各部署から20名がスタッフとして参加し、全学的な体制で、地域課題の解決、地域魅力の開発、地域活性化・再生の事業化に取り組みます。

■口腔保健学科の設置

4月1日、歯学部口腔保健学科を設置し、第一期生として16人が入学を許可され、教育を開始しました。

高齢社会における社会ニーズである健康長寿の推進に貢献するために、徳島大学の教育・研究基盤の特徴である健康生命科学、社会技術科学、地域創生総合科学を積極的に口腔保健学科の教育に取り入れて、豊かな人間性と高い倫理性を備え、口腔保健および福祉に関する高度で専門的な知識や技能を有する人材を育成します。

これにより、保健・医療・福祉を統合的に捉えることができ、口腔保健および福祉の専門的立場から社会に貢献し、また、これらの専門分野の教育、研究においても指導的役割を担える人材を育成することを基本理念としています。

II 学生関係

■入学式

4月6日(金)、アスティとくしまで平成19年度入学式が挙行され、青野学長が合計2,096名(学部1年次1,331名、学部3年次71名、大学院修士(博士前期)課程537名、大学院博士(博士後期)課程147名、助産学専攻科10名)の入学を許可しました。

入学生を代表し、工学部の三木浩子さんの総代宣誓の後、学長から「The things taught in school are not an education, but the means of education～学校で教わることは教育そのものではなく、教育の手段を学ぶこと。」という19世紀のアメリカの詩人エマーソンの言葉が贈られ、「新入生諸君の若さと可能性に賭けたいなる発展に期待している。」との式辞がありました。

■第58回四国インカレ開催

第58回四国地区大学総合体育大会(四国インカレ)は、一部の競技を除いて6月29日(金)から7月1日(日)までの3日間の日程で、愛媛県を舞台に愛媛大学が当番大学となり、28大学・短大から約3,500名の学生が参加し、26競技に熱戦が繰り広げられました。

本学からは、23競技に421名(男子347名、女子74名)の学生が出場し、競技別では、優勝が自動車競技(男子)・水泳競技(女子)、第2位が体操競技(男子)、第3位が水泳競技・ソフトテニス・剣道・ボート(以上男子)、硬式庭球(女子)と好成績を残しました。

本学の総合成績は、男子が第4位(昨年第5位)、女子が第5位(昨年第7位)と健闘しました。

III 研究助成金

外部資金受け入れ状況(平成18年度)

共同研究 191件 467,216千円 受託研究 121件 905,302千円 寄附金 981件 810,440千円

編集後記

学生実習というものがある。約半年間にわたり学生さんが放射線部に来る。私はこれが楽しみである。実習のことはさておき、彼らと色々話をするのが楽しみなのである。彼らの出身地は西日本が多いのは当然だが、時には東北、北海道からの人もいるのでうれしくなる。彼らに土地の話をしてもらうのは、じつに興味深いことである。

しかし最近思うことだが、彼らはあまり知らないのである。自分の生まれた土地の風物、歴史をあまり知らない。大変残念なことだが、彼らの多くはそれらに興味をもっていない。

また私は彼らが土地の言葉で話をしてくれるのを楽しみにし

ているのだが、共通語というのか標準語というのか、そんな言葉でしか話してくれない。しゃべらないのか、しゃべれないのか解らないが残念なことだ。授業とか実習の時は無理でも、教室で色々な方言が飛び交うのは、考えただけでも楽しい。薩摩人は薩摩の言葉で、土佐人は土佐弁で国家を論じ明治維新に導いた。井上ひさしは東北の言葉で小説を書いている。

私の夢だが、実習の時間お国言葉で自分の出身地を語り話しかけてくれる学生さんがいると楽しいだろう。

この会報にも全国から同窓諸氏の身近なことなど、色々な言葉、表現で載せることができれば面白い会報になると思う。

(睦眉会理事 荒川 清)